

# ふるさとと探訪

〔8〕

昨年末、あやべ市民新聞社に上野町自治会長の米田信さんから、八十年前に写したという君尾山（睦寄町）の大トチの写真が持ち

込まれた。大正二年ごろに舞鶴市に住む人が撮影したもので、米田さんの知人が持っていたという。一緒に写っている人と比較すると

そびえているところだ。その洞がどうやって出来たか、主幹部がどうしてな

根と七つの谷を覆い尽くすほどの大木という意味だ。樹齢は千年とも二千年ともいわれ、高さ約二十三以、幹の周り十・四以。市内で一番大きい古木だろう。

えており、見物に来る人も多かった。五津合町に住む波多野午之助さん（67）は「子どものころその人たちがの案内役をして、お駄賃をもらったのを覚えている」という。

寺。しかし、もともとは睦志自治会のものだった。昭和三十年代に同自治会と光明寺との間で賃貸契約が結ばれ、大トチの周辺約一以を光明寺が借りる形になった。

## 君尾山の大トチ

いう話もあるし、ただ朽ちただけ

第四回自然環境保全調査（緑の国勢調査）でも、ト

現在は自動車ですぐ近くまで乗り入れられ、案内のための標識に従えば容易に訪ねることが出来る。しかし、昔は林道

写真を見る限り八十年前の大トチは今のそれより大きく見える。なくなった主幹部はあくまで太く、洞の

## 洞もなく「青年」の力強さ

### 80年前の写真見つかると

その大きさが分かる。現在の大トチと違うところは、洞（ほら）がなく、今

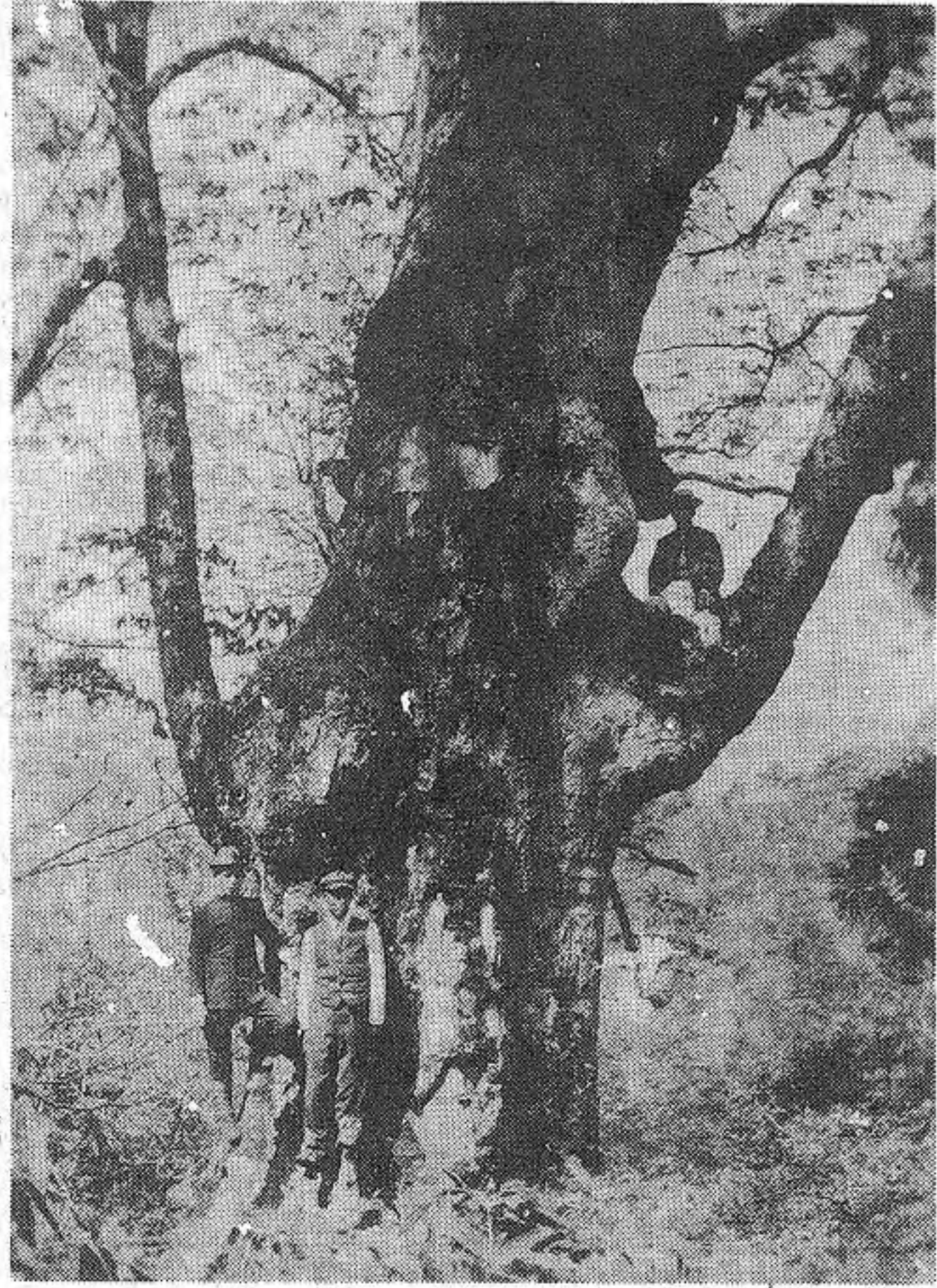
だという説もある。地元のお年寄りの話によると「少なくなとも六十年前には洞が出来ていた」という。

木の木の中では全国で四番目の大木であるとの結果が出た。府の天然記念物の指定も受けているし、平成三年には京都の自然二百選の植物部門にも選定された。

を一時間ほどかけて登り、そこから急斜面のけもの道を下らないと、その姿を見ることが出来なかった。そのため道案内が必要であり、「幻の大トチ」という形容もされたのだろう。

波多野さんは「あの木を特別に信仰しているわけではない。しかし、睦志のシンボルとして地元の全員が大切に思っている」とい

80年前の大トチ。洞もなく、太い主幹部がそびえている＝米田さん提供



かつて雄々しく

の五津合町睦志で昔から言われている言葉。七つの尾

君尾山に大トチありとい

大トチの所有者は光明

う。

（塩見）